

学校再編整備計画策定に向けた説明会（第4回住民説明会）【会議録】

1 日時

令和5年11月30日（木）19時～21時05分

2 場所

八幡屋小学校 講堂

3 参加者

地域住民の方々 19名

4 説明者等

【港区役所】

山口 港区長

若林 港区副区長

早川 港区役所教育担当課長

細江 港区役所エリア開発推進担当課長

村上 港区役所協働まちづくり推進課課長代理 外7名

【教育委員会事務局】

近藤 学校環境整備担当部長

笹田 総務部学校適正配置担当課長

岡永 総務部学事課学校適正配置担当課長代理

山崎 指導部指導主事

早瀬 指導部指導主事

外1名

【学校関係者】

校長 2名

5 説明会の概要

(1) 山口 港区長よりご挨拶

(2) 村上 港区役所協働まちづくり課長代理より資料説明

(教育委員会事務局・笹田 学校適正配置担当課長より補足説明)

(3) 質疑応答

6 質疑応答の内容

(ご質問・ご意見：1人目の方)

- ・ 私は八幡屋小学校を卒業しました。私の子どもは池島小学校で1年生からお世話になりました。今は娘が子育てをしています。その中で私が小学校4年生の時に、八幡屋小学校は、1クラス13か12か、私も幼かったのでそこまで数は正確ではありませんが、港区の資料ではきっと残されていると思います。

- ・ その時に八幡屋小学校の2年生は、隣の空き地にプレハブ校舎、それがもうずらっと並んで、2年生だけがそこへ行くのです。それで、児童が多過ぎて、次の年に港晴小学校が出来ました。
- ・ 担任の先生から、小さいながら聞いていたのは、港晴小学校の前の通りね、ずっと、あそこに車がどんどん走っている時に、八幡屋小学校に港晴のほうから子どもが来るわけです。あそこが心配だなと、ここは車に気を付けないと駄目だよと、横断歩道があるから、しっかり手を挙げて渡るとか、そのようなことはずっと聞いていました。
- ・ その後子どもが1人で通学していたときに亡くなりました。担任の先生からそのことを聞かされました。「私たち教師は、ここの道路を渡る通学路にしては駄目だと再三言っていたけど、ついに子どもが死んだのか」という言葉を聞きました。その後、港晴小学校ができて、ここの大きい道路を渡り八幡屋小学校に来ることはなくなりました。陸橋も作りまし、港晴からこちらに来ないので、通学路としては安全です。
- ・ 今、奈良県や全国各地で道路という道路の線が、ほとんど車道であり、歩道は一体どこを通るのかという、そんな映像があり、子どもたちが死んでいます、交通事故で。
- ・ やはり教育というのは、勉強だけ教えるのではなくて、人生そのもの、子どもが生きていくことをいろいろ経験しながら、危ないことは避けて、こういうことをしたら相手は嫌がるとか、そういうことはしてはいけないと、集団でいろんなことを学んでいくのです。
- ・ いろいろ考えたうえで立案されていると思いますが、そのようなことお聞きになったことはありますか？今の一つ目はね、死亡事故の話です。
- ・ 二つ目は、この説明の中で、条例や国の方針、文科省とかいう言葉が出てきましたが、国としては子どもの人数により廃校しなさいとか、そういう法律があるのですか？
- ・ 大阪市は条例がありますが、条例の中で人数が少なくなれば、廃校としましょうということが流れているのです。市会で決まっているのですか。条例で。お話ししましたが大阪市議会でこれが決まった、それはいつ決まったのか教えてほしい。
- ・ その市議会の議員たちは、どのようなメンバーなのか、本当にいろいろな意見が含まれているのか。大阪市、大阪府、失礼なことを言ったら申し訳ないですが、維新の会の議員が多いですね。そうすると、過半数で成立します。賛成反対で他の党の、自民党やら立憲やら共産党やらの意見っていうのを、そういう意見は聞けないわけです。もう効果ないです。議員が少なければ。だから市議会で決まったとしても、私は本当に住民の意見を皆さんが言ってくれて、その条例が決まったのかがすごく不安です。一党独裁という言葉もあります。テレビでいろいろありますが、それと同じではないかと。ほんまに不平等ではないかなと感じています。
- ・ それと三つ目。柏原市は、だいぶ田舎の方です。八尾市のもう少し上で、葡萄畑がありまして、上に上がれば自然いっぱいなところで、山道どんどん行ったら、僻地校1学級、学年1学級しかありません。
- ・ それともう一つ信貴山のほうに行く子どもたちには分校があります。あれは僻地と言うのですか、分校があります。それは1クラスです。
- ・ そこで学んだ人たちと、私は幼稚園の教師をしていまして、そのこの山の上の小学校、僻地校に通っている先生が結構いらっしゃいました。
- ・ 先生たちに聞くと、1学年1学級です、ずっと持ち上がります。保育所、幼稚園、1年生、2年生、3年生ずっとあって、中学校1年生、2年生、3年生と、本当に幼稚園、小学校、中学校が並んでいるところです。

- ・ その子どもたちは、もう同じ学級、同じ顔ぶれで嫌なことなかったとか聞いたら、いや、兄弟みたいなものです。何々ちゃんは、あそこ行って、ここ行ってと言って、卒業しても同窓会したら、もうみなさんが集まって、それと勉強のほうですが、皆さんよくできます。なぜかと言ったら、先生分からないと言って、それならあとで職員室来いと言って、頻繁に職員室に行って、勉強は全て落ちこぼれなく、ずっと学ぶべき教育要領をしっかりと学ばれていました。
- ・ 少人数学級が悪いところ、デメリットがあると、メリットとデメリットがあるという説明は、これは誰が選ぶのですか。デメリットがあってもいいのではないのですか。そういうふうに感じております。
- ・ 令和9年実施ですか。それまでにどういう過程を踏んで行かれるのか？
- ・ まちづくりです、池島地域、今、平地になっているところですが、あれは分譲住宅、市営住宅、家族向き、あれが建てばね、子ども多く増えますよ。池島小学校増えますよ。
- ・ 私が今住んでるマンションは、私ももう歳ですので、もう10年生きていたら生きていられるかなという感じなんです。娘は自分の家を持っています。だから孫が後を継ぐのです。孫にあげる。お母さんのマンションをあげると。孫が結婚してそこへ住むのです。建て替えとかいろいろなことは別としてね、住むのです。今、高齢者でどんどん、歳をとり、亡くなっていきます。順番に。
- ・ そうしたら若い人が入ってくるわけです。そのようなことを考えて、10年後は、本当に人口少なくなるのか？八幡屋地区は少なくなるのか？そういうことも長いこと見て、まちづくり、検討されているのでしょうかという疑問なのです。

(早川 港区役所教育担当課長)

- ・ すみません、1点目の通学路のことですけど、今使っている通学路は、当然、再編で統合されたら、今の通学路以外の通学路を使うことになりますので、危険な場所もあるかと思えます。
- ・ それについては、さきほどの説明にもありましたとおり、今後、学校適正配置検討会議、保護者の方とか地域の方とかPTAの方も一緒に、その辺の通学路の、どの通学路を使ったらいいかとか、どこが危険だとか、そういう話もしていただいて、必要に応じて道路管理者、大阪市の建設局とか、また警察の方とかとも、その辺どういう対策をとったらいいかというのをお話ししながら検討していくということになりますので、今後の検討にはなりますけど、安全対策を十分とっていきたいと思っています。

(教育委員会事務局・笹田学校適正配置担当課長)

- ・ 続いてのご質問にお答えします。国にそのような法律があるのかというご質問ですが、国では何人以下になったら、統合するといった法律はありません。
- ・ しかしながら、国においても、子どもの教育環境改善のため、学校が小規模化しているところは、学校規模の適正化を進めていくことが必要であるという方針があります。
- ・ いろいろな自治体によって、人口規模や地域の状況が違うため、それぞれの自治体の状況に応じて、適正化を進めていきなさいという方針が示されています。大阪市では、学校の統合について昭和の時代から、一時的に子どもの数がピークを迎えて、学校を増やしてから子

どもの数が減ってきている状況に応じて、昭和 50 年代から議論が始まっていました。過去に審議会を立ちあげ、独自に判断をし、統合というのが行われてきました。

- ・ 条例についてですが、今までの取り組みにおいて、何を根拠に統合するのか、基準やルールの整理を行い、令和 2 年 4 月に大阪市の学校活性化条例を改正しました。学校適正配置については、学校の規模を適正化することは、教育委員会の責務として行っていくことなど、その取り組みのための基準やルール、進め方について定めたというのが、さきほどご質問にあった条例化になります。
- ・ この条例については、市議会で議員に検討いただいて、いろんなご意見、質疑もありました。市民の住民の方々からもいろいろなご意見がありました。陳情も含めて審査をいただき、本会議での審議を経て、賛成多数で可決をされ、私どもはそれに則って、今進めているところです。
- ・ それともう一つ、柏原市の小規模な学校で、子どもたちが、のびのびと先生方の目が行き届いた中で、育っている様子をご覧になられていた話であったかと思います。
- ・ 小規模校にはそのような良さはあることは私達も認識をしています。
- ・ 例えばこの地域の 3 つの小学校において、本当に先生方が様々な工夫の中で良い教育環境を保っていることは十分認識はしていますが、その子どもが成長するに当たって、子ども同士の関係性の中でこそ身につけることがあると考えています。
- ・ さきほど集団の中で学ぶことについての意見もありましたが、少人数学級を行うには、教員や周囲の大人の努力だけでは限界があります、大阪市は柏原市とは違い、人口もそれなりにある都市です。今その統合を行うことにより、一定集団規模を確保できるのであれば、大阪市としてはそのような環境をつくり、他の学校で得られる機会と同じ機会を、子どもたちに提供できると考えております。そういう子ども同士の集団の中で、力を培う機会が学校の規模によって差があるという状態については、大阪市では統合という形で改善ができますので、それはやる必要があると考えています。
- ・ ですから、小規模校であるがゆえに、生じている機会の減少といった課題は解消しなければならない、子どもたちにとってよりよい教育環境を整えるためには、学校を統合して、適正な規模にすることが必要だと考えています。
- ・ また、今後どういう過程を踏んでいくのかという質問ですが、今示している学校再編整備計画案を教育委員会として審議をし、計画を策定します。その後、学校の統合に向けたいろいろな準備があります。
- ・ 学校名、校歌、校章、そのような具体的なこと、通学路の安全をどう保っていくのかについては、学校適正配置検討会議という会議を立ち上げます。、その会議のメンバーは保護者の代表の方、地域の代表の方、そのような方々で構成される会議になります。そこで皆さんのいろいろなご意見を聞きながら、通学路の安全をどのように保っていくのか、スムーズな統合に向けてどのようなことが必要かというような意見を聞きながら具体的に進めていきます。
- ・ また、その統合に向けて、急に学校が一緒になり、子どもたちの環境が激変するのは大変なことです。今後、学校同士、区役所、教育委員会も入り、どのようにスムーズに統合していくのか、例えば子どもたちの事前交流などを含まれます。中学校の統合については令和 9 年度ですが、3 校の小学校の統合については、校舎整備する必要があるので、令和 11 年になります。それまでの間に、しっかり時間をかけて新しい学校をどうしていくのかを学校の先生方と一緒に検討していく形で進んでいきます。

- ・ 最終的には、学校設置条例を改正して、最終的に統合が決まるという流れになります。

(細江 港区役所エリア開発推進担当課長)

- ・ 最後に、10年後、本当に人口は少なくなるの、本当にまちづくりとして、そういうようなことを考えながらやっているのというご質問だったと思うんですが、大阪市、日本全体がそうなんですけど、やっぱり少子高齢化、人口減少という大きな流れは、なかなか食い止められない、大きな流れがある中で、特に港区につきましては、残念ながらやっぱり人口減少がかなり進んできている区にはなっているのが実態です。
- ・ 特に八幡屋、港晴、池島、この3地域というのは、かなり人口が減ってきているエリアではあるんですけども、ご指摘いただいたように、逆にやっぱり孫の世代が戻ってきたりとか、特に市営住宅を建替えてきている中で、空いてきている土地を、まとまった土地が生まれたら、そこに新しいマンションが建つ余地も出てきますし、むしろ人口がどんどん増えていくような要素もあると思うんです。
- ・ そういったところをしっかりと、10年20年後ぐらいを見据えた、若い世代がここに帰ってきて、やっぱり住みたいなと八幡屋公園とかよい公園もあるし、八幡屋商店街のよい商店街もあるし、やっぱり住みたいなという、まちづくりと一緒に、これから区役所もさせていたきながら、やっぱり学校自体は今、劇的に子どもの数が増えるというのは、なかなか見込みはないというのも実態としてあると思うんですけども、やはり子どもが増えてきたら、また学校いるよねというのは、そこまで持っていけるようなまちづくりを、しっかりと一緒にさせていただけたらなと思いますので、引き続きそういった意見は、区役所もしっかり受け止めて、まちづくりに取り組んでいきたいと考えているところです。

(ご質問・ご意見：1人目の方)

- ・ 教えてほしいのは、池島地域の更地、あれが何になるんですか？

(細江 港区役所エリア開発推進担当課長)

- ・ 今、解体工事をしているところですかね、結構まとまった、私伺っているのは大体1万平米、1ヘクタールぐらいの広い土地が未利用地として、余剰地というふうに市営住宅のほうは言っていますが、そこはまだ何になるかというのは決まってないです。
- ・ 基本的には大阪市の考え方は住宅、ファミリー向けの住宅を、そういうマンションを建てられるような条件で売却するというのが、大体の一般的には進めていく手法だと聞いているんですけども、基本、売却ということで未利用地の土地は売却という原則があるんです。
- ・ そういったところの跡地活用については、まだ方針としては、これから決めていくところでもありますので、やはり地域の皆様のご意見を伺いながら、いい形で土地利用していかないといけないかなと、結構まとまっている土地なので、基本的には大阪市としてはそういう土地は売却というのが基本原則であります。

(ご質問・ご意見：1人目の方)

- ・ そしたら人口増えますよね。分譲住宅が建つとか。西区はちょっと家賃高いんですよ。やっぱり都心に近いから、だから西区に住めない人は、港区まで流れて、住むと思うんです。若い方は。そういうことを考えてください。

(山口 港区長)

- ・ 市営住宅の跡地に関しましては、都市整備局というところが所管をしています。今解体をしていて、解体からいわゆる商品化というんですけど、売却に向けて大体2年ぐらいかかります。その間に区も一緒に入りまして、地域の方との意見交換の機会は作って、基本的には、ファミリー向けの住宅が来てほしいとは思っているんですけども、そういった子どもが増えるような取り組みにはしていきたいと思っています。
- ・ 一方で資料の48ページを見ていただきたいんですけども、3小、八幡屋、港晴、池島、3つの小学校を統合した際のシミュレーションが載っています。
- ・ 私が非常に心配していますのは、令和11年度、つまり再編の年の1年生が50人、3小合わせても50人、そして2年生が52人という、この人数の少なさです。これは2クラスギリギリの状態、ここから例えば15人ぐらい抜けてしまうと、また単学級になってしまいます。
- ・ それを避けるためにも何としても、まずはこの2クラス3クラスを維持するために、子どもを増やさなければいけない、子育て世代に来てもらわなければいけないという、まちづくりを今並行して始めなければならぬ状態です。
- ・ 1年生になるときに出てしまう方もいらっしゃるんですが、このエリアの小学校がクラス替えができないということが原因になっているところもありますし、逆に1クラスやから、小さい学校やからといって選んで住む方もいらっしゃいます。それぞれのニーズが個別にあるのはもう重々承知はしているんですけども、一方で教員もどんどん若くなっていて、なかなか1人1クラスでは育成がしんどいという理由もありまして、まずは学校の再編をして、教育環境を整えて、よい学校を作りつつ、まち作りを並行してやっていきたいというのが私達の思いであります。以上です。

(ご質問・ご意見：2人目の方)

- ・ 28ページに、さきほど出ていた小学校、八幡屋小学校、港晴小学校、池島小学校で、これね、全部合計してみたらね、私計算間違ってるかわからへんけど、全部で500人になるんですね。
- ・ 私は登校見守りを朝にしまして、八幡屋小学校ですけど、30人ぐらいね、並んだらね、もう自転車がクロスしてるところでね、自転車は通れない、歩く人も通れない、もう車はもちろんストップという形でかなり危険な状態なんですよね。
- ・ 八幡屋小学校だけで見ても通学路というのは、車と歩道の段差がないんですよ、ほとんどもうフラットですから、非常に危険な通学路と私は思うんです。そこにこれ合計したら500人ぐらいになりますよね。500人ぐらいの生徒が通るとなると、一体あの狭い道どうなるのかなと、そういうのをちょっと考えてもらったことがあります？
- ・ 小学校の数だけ言ってはるけども、数が少ないから、一緒にしたらええやないかと、単純な考え方やなと思うんです。数が少ないからいろんな弊害があるとか言ってね、社会性がどうのこうのとか、同じ学級ですとね、6年間一緒やから大変やとか、今説明聞きましたけど、やっぱりね、少人数学級の良さというのはあると思うんです。ここに22ページに文科省が書いていますよね、方針。
- ・ これね、50年前の文部省は、小規模校には子どもと教師の人的ふれあいなど評価する面もあり存知して置いておく、ということですね、存知して充実させるほうが望ましいという、こんな通達を50年前に文部省が出してらっしゃるんです。

- ・ こういう通達が、これいつ廃止されたのかなと思って、ちょっと見ましたら、地方創生政策というのがね、安倍さんになってから、2014年かな、出されて、その政策というのがね、あの公共施設の総量を総面積として捉えると。この施設の総量を減らすようにというふうに自治体に求めました。
- ・ ということで、学校施設がそうになると、公共施設としては、もう一番のターゲットになりますよね。公共施設を減らせというふうに言ってるんだと、私は理解したんですけど。
- ・ 現に今、港区民センターもね、新しく作られていますけども、大阪みなと中央病院の横ですけども、あの面積を見たら、今までの3分の1ぐらいしかないのと違うかなというぐらい、あの狭いホールができるなと思っています。
- ・ ですからやっぱり本当にね、あの小学校を減らすのは子どものためなのか、こういう公共施設、施設の総量を減らせという、こういうところから出てきているのかなというふうに思わざるを得ないんです。ですから学校の教育的見地からというのがね、どうしても納得できないので、やっぱりこの統廃合についてはね、納得できません。以上です。

(早川 港区役所教育担当課長)

- ・ 初めにお聞きしました、一つの学校になったら生徒数児童数が増えて、通学、確かに学校の近くと言ったら、児童が通学するのに増えてくるということで、そういう危険も出てくるので、そこについても、学校のほう、先生のほうともご相談しながら、安全な通学ができるようにさきほども申しましたように、検討会議のほうでも検討をしながら、どういう通学の仕方、通学路がいいのかも含めて、今後検討していきたいと思っています。

(山口 港区長)

- ・ あとはですね、これも何度もお答えしてはいるんですけど、小規模校と少人数指導の違いを説明します。今までも大きな学校にも習熟度別とか少人数指導の先生というのがおりました、例えば算数をちょっとゆっくりめに教えたい子どもと、ハイペースと言うかね、割とどんどん進む子と分ける指導をしたりだとか、そういったところを大阪市は様々にやっています。
- ・ 私たちが課題だと思っているのは、1学年に1クラスしかない、それも10人を切ってくるような小さい学校も出てきていることです。30人ぐらいなら集団として、その中で班活動、よく小学校でするのですけれども、班を作って、誰かが班長になって、何かしらの活動をして、またそれが違う子が班長交代して、みんながいろんな立場を体験する、また違うチームを組んでみる、そういうことも何とか30人ぐらいいたらできます。
- ・ 私も1学年が一番少ないクラス人数で12人の小学校の校長をしていたんですけども、その12人いて、特に男子が4人とか、男女比がちょっと悪かったものですから、そうやってきたらもう話し合い活動も、いつも幼なじみというか、ちっちゃい頃からずっと一緒なんで、同じ子の意見で決まってしまうたりします。役回りを変えてみるとか、新しい友達に出会って、また分かり合っていく経験みたいなことを、本当は必要な失敗が許される小学校、中学校、義務教育の中で、いろいろ体験してほしい。新しい仲間に出会い、たまには気の合わない子もいるけれども、その中で失敗もしながら、教員に見守られて折り合いをつけながら学んでいくとか、クラス替えを経験して新しい友達を作るとか経験してほしいんですけども、例えば委員会活動でも同じメンバーになってしまう。

- ・ そういった悩みをずっと持ちながら、校長をやっていたので、やはりクラス替えができる環境にはしてやりたいと思っています。その方向性で国も大阪市も学校再編ということはこの少子化の中で進めざるを得ないというのが、今の状況ではあります。
- ・ いろんなご意見があるのはもう重々分かっております。各学校は、今一生懸命それぞれの子どもたちに向かいあっていただいています。一方、令和11年度に再編ということであれば、それまでずっと1学年9人の子どもたちがいたり、15人切るような子どもたちがいたり、また池島小学校の次の1年生6人ということを今聞いております。そういった状況にもなっている中で、もうこのままにはしておけないだろうということで、今こうした説明をさせていただいているところです。以上です。

(ご質問・ご意見：3人目の方)

- ・ 築港から来ました。前回というか、21日の築港での説明会にも参加させてもらったんですけども、その時はちょっと手を挙げていましたが、もう時間切れで当ててもらえずだったので、発言させてもらいます。
- ・ 教育委員会の方の説明の中で、小規模校のメリットもあるけどもデメリットのほうが多いというようなことも言われてたんですけども、私自身が小規模校、小学校1年生から中学校3年生まで、同じ学年で14人、私の弟や妹は10人もいない学校で9年間過ごしました。
- ・ 十分社会性は育っていると思います。高校にも、あの高校でね、大人数というか、行きましたけども、特に問題なく過ごせました。なので小規模校はやっぱり悪くはないと思います。
- ・ その小規模校では悪いところが多い。社会性が育たないとかって言われますけども、私、否定されているみたいで、もうすごく嫌な気持ちになっています。
- ・ 今の築港中学校、港中学校、再編対象になっている小学校で、何か小規模校での悪いところが何ができないという具体的なこととかあるんでしょうか？先生方から何か問題、ここが問題なんです、もう学校一緒にしてくださいということが出ているのか、子どもたちからも何かそういう声というのを聞いているのかと思います。
- ・ 私、子どもたちは築港小学校、中学校卒業しています。35ページのところに、築港小学校の特色化で、まちの活性化とともに学校の魅力化で、地域の子育て世帯の増加を目指すとしていますけども、子育て世帯が増えて、子どもが増えて、小学校は今のところ残る予定ですけど、中学校はなくす方向になってるんですよね、私は反対なんですけど。
- ・ もし、子育て世帯が増えて、小学校の人数もかなり増えてきた、ほんなら中学校なくなったら、また元に戻してもらえるんですか？以上です。

(早川 港区役所教育担当課長)

- ・ 一つ目の小規模校のデメリットの具体的なということなんですけど、実は、私の子ども、小学校4年生のときから不登校気味やったんです。単学級ではないので、4学級あるんですけど、やっぱり初め、いじめめなところから不登校ぎみになって、4年生行かなくなったんですけど、5年生に上がるときに、先生のほうから子どものほうに聞いてもらって、誰々が嫌やっていうか誰々にいじめられた、だから一緒のクラスにしてほしくない、一緒のフロアにしてほしくないっていうのがあったんです。実際それで変えていただいて5年生の初めに行けるようになったんです。

- ・ そういう例として、一つの例なんですけど、そういうこともあるということで、そういう方もいるというのを、ちょっと例としてお伝えしておきます。

(村上 港区役所協働まちづくり課長代理)

- ・ 私の方からもう少し補足といいますかお答えさせていただきます。よろしいでしょうか。
- ・ 中学校のところで、一つは教員の配置のお話、それから、1点が子どもたちにとってというところのことで申し上げますと、今、学校のほうから、そういうお声も聞いたりとかするぐらいのことかもしれませんけれども、今お聞きさせていただいているところでは、生徒数が非常に少なかったり、今実際、築港中学校なんかもそうですけれども、そうした場合に、修学旅行とか、それから1泊移住とか、そうしたところが極めてしんどいということはあるように聞いております。
- ・ すなわち、例えば修学旅行の場合、旅行業者さんとかが、なかなか応じていただくことが困難であったりでありますとか、例えばバスでどこかに行こうといたしましても、そのバスを探すことが極めて困難のように聞いております。そうしたこともあって非常に難しいところが出てきているというようなことも聞いております。
- ・ あと、それから部活動なんかでおきましても、なかなか成立することが、一つの学校の中で成立をするということが極めて難しいということは聞いております。実際に昨年度ですけれども生徒さんのほうにも直接お声は聞かせていただきました。
- ・ 生徒さんに直接お声聞かせていただいた場合においても、たとえば吹奏楽部に行っていた子どもさんからのお声でしたけれども、吹奏楽なんかにおいても、そうした発表する場がありますとか、なかなかその人数が非常に少ないといったことで、非常にしんどいといったことは生徒さんからもそういうお声は聞いたことがございます。
- ・ それで、教員のところのお話に移らせていただきます。今現状として非常に困っていることがあるかということで申し上げますと、直接ということはなかなか申し上げにくいところあるんですけれども、今現状、中学校にしる、小学校にしる、困っていないように見えるかもしれませんが、それは加配という形、今でもそうでございます。
- ・ 元々学校の先生が配置されている、本来、ルールどおりではめられる教員、先生の数とです、今現状においても加配という形でかなり多く配置をしていただいております。その配置によって、今現状、加配を打った上で、今の例えばその築港中学校のことで申し上げましたら、その形で今まさに回っている、運営されておられるというところでございます。
- ・ しかし、それが未来永劫、本当にその形が続けられるのかどうかといったところについては、ルール以上の配置がなされているということが前提になっておりますので、先のところで申し上げますと、少し不安なところはあるのは正直なところかなというふうに思われます。

(教育委員会事務局・岡永学校適正配置担当課長代理)

- ・ 少し教育委員会からも補足させていただきます。築港中学校で、今困っていないかとかいう話と思います。教員の配置のところは、現状の築港中学校において、加配を配置しても、なお常勤の教員を全ての教科に配置することは困難であることから、一部の授業、教科において授業時間数の少ない教科は他校との兼務、または非常勤講師の配置によって教育活動を確保しているところです。

- ・ この兼務教員や非常勤講師につきましては、授業は行えますが、校内に不在の時間も多く、生徒が学習などの相談というのをしたいときにも時間が極めて限られるなど、そういった影響というのも懸念されています。

(山口 港区長)

- ・ 最後に補足を。まず小規模校でね、いい経験をされて、社会性もしっかり付いてということで、そういった方もいらっしゃる中で嫌な思いをさせて申し訳なかったです。
- ・ 実際、小規模校の校長を3年間やっていた中で、人数も少ないので卒業生をずっと追っかけています。今も20歳前後になっていますけれども、たまたましんどいエリアだった浪速区というのものもあるかもしれないんですが、中学校で不登校になる子がいたりとか、親の都合でいきなり大規模校に途中で転校した子がその後ずっと不登校で、なかなか進路に苦労したりした事例はあります。
- ・ ただ私は、大規模、中規模校、小規模校それぞれにいろんな個別の課題ある子は必ずいますし、必ずしも学校規模がこうだったから、そうなるんだと言えるものではないと思っていますので、ご意見をしっかり受け止めたいと思っています。
- ・ 一方で学校での困りごと、それから生徒からの意見というのは、さきほど答えを担当からそれぞれしてもらったとおりです。
- ・ 私も直接子どもたちに、区長になった年ですね、去年の春に3年生とちょっと意見交換したんですけども、そのときに言われたのは、とにかく吹奏楽部が有名やから入ってきたのに、吹奏楽が人数少なすぎて出るべき大会に出られなかったと、それがすごく悔しいみたいなことは子どもたちに言われた覚えがあります。
- ・ 部活はね、また合同にしていったり、いろんなまた課題解決の仕方があるとは思いますが、最後におっしゃっていた、中学校が増えたら、人数増えたら戻りますかということで、小学校はまず2クラスあれば何とか、担任制ですよ、教科担任制ではないので、何とか2クラスにしたいと。
- ・ 次、中学校はやはりさきほど申し上げましたとおり、特に4教科の教員、美術とか体育とか、そういった先生が兼務になりやすい。どうしても人数少ない学校に1人しっかり配置することが今の基準では出来づらいので、何とか3クラスを置いて、中学校はよく学年集団というんですけども、学年の教員団が一緒になって、子ども3年間持ち上がって指導するというやり方が、割とスタンダードですので、そういった環境に持っていくのに多少の時間、子ども増やすのにやっぱり時間はかかるだろうとは思っています。
- ・ 学校跡地を何とか残して、事業者に貸し出すということが多いです。例えば15年とか20年というスパンで貸し出している事例があるんですけども、当然その契約が切れるときに次どうしますかという話になります。その時に子どもの数が、中学校3クラスにできるぐらいに、港中学校に統合したけれども、いっぱいであるという状況であれば、また中学校、その土地がありますので戻せるようになったらという思いで、私は再編に取り組んでいます。以上です。

(ご質問・ご意見：4人目の方)

- ・ さきほどおっしゃっていた、市議会で条例が適正規模を決めたということですが、2点申し上げておきたいと思います。適正規模を市議会で決めること自体が、教育行政の不当な、私は支配、介入ではないかと思えます。

- ・ 本来は教育委員会として、適正事項ですね、市議会が政治的に決定するんじゃないしに教育委員会がやっぱり教育的判断をするべきものではないかと申し上げておきたいと思います。
- ・ それから48ページですね、シミュレーションなんですけど、人数が400人、合計ですね、私の知る限りでは、WHOが100人を上回らない規模というので意見が一致しているという資料を読みました。
- ・ 初等教育の学校規模というのは、国際比較、ユネスコですが、100人から200人程度が国際基準で、1学年1学級程度でクラス替えがないことが一般的となっています。
- ・ 日本はこれでいくと300人超えなど、諸外国に比べて2、3倍の子どもたちの数になる、だから元々日本はもう詰め込み教育で、たくさんの、それ25人になるかもしれないんですが、このコロナで文部科学省の方から2mの間隔を取る衛生管理マニュアルというのも発表していると思います。それはご存知だと思うのですが、こういうことをもっと、さきほどおっしゃっていたのと、少しずれがあるかもしれないですが。
- ・ もっと世界にも目を向けて日本国内だけではなく、そのいいところをもっと私は教育委員会として調査すべきではないかと思えます。この問題については、一方的にもうこれで打ち切りではなしに、もっと合意形成です、市民と話し合いをして納得するまで決めないでいただきたいと思えます。

(教育委員会事務局・笹田学校適正配置担当課長)

- ・ さきほどの適正規模を審議会で決めたことについて、少し説明が不十分でした。
- ・ 適正規模が12学級から24学級であること、どういったルールで決めていくのかということについては、適正配置の審議会の中で、いろいろな議論をしてきました。教育委員会として教育委員会会議で決めた指針・ルールというものは持っております。
- ・ この、教育委員会で決めているルールを、行政の責任で進めるということですが、また、それから再編整備計画というものを、どこが作るのか、作った後の計画について具体化するための仕組み、住民の方々や保護者の方々の意見を聞く仕組みをどのようにするのかというルールを、条例で定めたということになります。具体的な適正規模、適正配置に着手する基準等々については教育委員会が教育的な判断のもとに教育行政の中で決めています。

(山口 港区長)

- ・ 海外との比較とか、ユネスコの基準というのは、よくこういった場でもお聞きするところでもあります。もちろん日本の文科省が、その方針を取れば1クラスの人数は少人数になります。例えば35人学級になったということも、非常に大きなことではあったんです。
- ・ 長年進まない中で、やっと35人。気持ち的には30人にしてほしいという思いも、学校現場にいた身としては思います。
- ・ その海外の事例と比較されると、やはり公教育というものが、学習指導要領に則って、ある程度の集団の中で子どもを育成するところをずっと進めてきた中で、税金を使って行われる公教育というものが、ある程度、国の方針だとか自治体の方針に従っていかねばならないというのは、やむを得ない部分です。私学だとかインターナショナルスクールは、本当にいろんな解釈で小さい学校もありますし、クラス替えが無いような学校もありますし、例えば異学年を一緒に勉強する1年生、2年生、3年生が同じ教室に入って、好きなペースで勉強するような学校もあつたりします。

- ・ 確かにそれが世界全部のトレンドかという点、そうではないんですけれども、教育熱心で知られる国ではいくつかそういう国もありますので、こういったご意見というのはよくいただくところです。
- ・ 今はでも私たちは、大阪市そして国の大元を決めているのはやっぱり文科省ですので、悲しいかなこの人数、子どもの人数がこうで、クラス数がこうだったら、教師はこれだけ配置しますというのは、国の基準で基本的に決められています。
- ・ 現場にいた時に、やっぱりもうちょっと先生がいてくれないと困るという思いで、加配をお願いして、さきほどあったんですが、加えると、配置すると書いて、加配と言うのですけど、大阪市も努力していろんな習熟度だとかいろんな加配をつけてくれてはいるんです。
- ・ またスクールカウンセラーとか、スクールソーシャルワーカーとか、図書館司書とか、今はもういろんな専門家が学校に入ってきてチーム学校という形で、少しずついい状態にはなりつつあると思っています。
- ・ ただやっぱり1クラス、クラス替えがきかない状態でのあり方という、しかも学校がやっぱり近くにある状態で、今例えばお孫さんなり、お子さんなりが通っている学校は、そこそこの人数規模がいても、隣の学校がもう人数がとても減って、例えば男女でいくと、もう女の子が1人になってしまったとか、そういったような状況もある中で、この話をさせていただいているところで、ご理解いただければと思うところです。以上です。

(ご質問・ご意見：5人目の方)

- ・ すいません、よろしくお願ひします。21ページの条例や国の方針などに対してのご質問・ご意見の見解、今後の対応の丸ポチの3番目に、大阪市全体、港区全体で児童生徒数の減少が続いておりということで、今後のことを見据えた検討を行う必要があるということだったんですけれど。
- ・ もし令和11年度に開校を予定して、学校適正配置検討会議が行われると思うんですけれども、この会議中に近隣の港区中部であったりとか、今、全国的に人口が減っていますし、私の子どもも、お兄ちゃんのときは幼稚園が4クラスだったものが下の子が幼稚園が春に2クラスであったり、港区にある文化幼稚園、それからみなと幼稚園ですかね、入学者というのも、かなり定員割れをしているというのを聞いています。
- ・ そのためには、もちろん転入者を増やす、増やしたいというところのご意向ではあると思うんですけれども、もしそれが今現在、土地を売却して用地開発をして、それから建物を建てて募集開始して、入居してというところで、令和11年に小学校の人数、今現在の人数等が出ていましたけども、今の0歳、1歳、2歳のところの人数が、小学校1年生に上がった時に、思うような数字にならなかった場合には、その今回、学校適正配置検討会議というのがなされると思うんですが、これというのは、また変わったりとか、また新たに検討が始まったりとか、振り出しに戻ったりとかすることはあるんでしょうか？
- ・ それとも、それはそれとして、この問題で、ここだけの今進んでいる話は、そのまま進むという認識でいいんでしょうか？

(山口 港区長)

- ・ ご質問ありがとうございます。実は三先小学校、それから田中小学校、市岡小学校、今後、単学級になる可能性は十分にあるぐらい、やっぱり少子化が進んでいるところです。

- ・ この問題を先送りしますと、たぶん6小統合ぐらいのすごい話になってきますと、何が起るかという、あの校区が大変広がってしまって、さらに通学の課題が一層増えてしまうということもありまして、まず最小限、今のこの何とか3小で、築港小学校を残すというのも大変特例的なことで、ここも何とか頑張っ2クラスにして、残る三先、田中、市岡も一生懸命、空き家対策なんかもしながら、若干、増加傾向にあるところもありますので、何とかしたい。
- ・ だから一旦この計画、一応進めていくというのは、今の案のままで途中で変えるということは、まずは考えにくいところなんですけれども、万が一ですね、やはりコロナの中での少子化が大変続いたことと、想定したくないですけれども、震災があったりとか、大きな社会変化があった場合は、また何かしらの検討が必要になる可能性はゼロではないので、ゼロとは言いきれないんですけど、極力この再編と、その後のまちづくりで、これ以上はやらずに済ませたいというのが思いではあります。
- ・ ありがとうございます。ごめんなさい、あともう1個言うのを忘れていました。
- ・ 基本、日本の子どもの数だけでいくと、完全に少子化、もうあとたぶん20年ぐらい続きます。今暫定的に増えている西区、中央区でも、たぶん減っていくのは間違いありません。
- ・ 一方で今、港区は数十年ぶりに人口が増えました。それは外国からの転入者が非常に多かったのも、自然現象と転出者を上回って、外国の方が入ってきたというのが大きいです。
- ・ ただ若くて働く方、まだ20代前後の方が非常に多くてですね、こういった方が、万博、またその後のIRだとか国際観光拠点になっていく中で、日本で働く外国の方がすごく増える。そして、港区を選んで住んで家を買って、子育てをしていくという未来が、私はそうなるであろうとは思っているんですけど、そうなった時には、人口が想定以上に回復することもあり得ると思っています。
- ・ その時に、学校が足りないという状況になったら、また考え直さないといけないと思うのですが、少なくとも令和11年までにそこまでとは思っていませんので、今の計画でやりたいと思っています。以上です。

(ご質問・ご意見：6人目の方)

- ・ 私は港区港晴でね、商売をやっているんですけど、市場なんかでも本当にこのシャッター通りでね、大変な状況。商店街の端から向こうの出口まで見えるような状況になってますね。
- ・ やっぱり周辺の住民というのはね、住環境が良くなかったら、商店街は衰退していく一方なんです。住環境の中でね、港区の文章を見させてもらっても、やっぱり教育環境だとか住環境、そういったものが重視しているわけです。
- ・ そういう中で小学校を潰すとか中学校を潰すということになるとね、ますます町が衰退していくということになるんじゃないですかね。そういうところね。子育て世帯が港区に来て住もうとそういうことをあると思いますか。
- ・ 築港なんかでも、小学校今回は残すと言われたけども、学校もない、病院もない、市場もない、非常に住みにくいところになってしまう。これではやっぱりいかんと思います。
- ・ それでですね、19ページで、小規模校の課題についてのご質問・ご意見、これに対する見解、今後の対応ということですが、疑問に対して一切答えていない。何が何でもやるんだというね、そういう回答ですよ。こういった我々の疑問に、答えるね、内容になっていないというふうに思います。

- ・ それとですね、山口区長のてるてるだよりを昨日見てたんですけども、港区のビジョンについてですね、人口が今現在 7 万 9500 人、令和 4 年時点で。それを 10 万人にしたいということで書いていますけども、この 10 万人にするという計画をがかりながら、このパンフレットでも、どんどん人口が子どもの数が減っていくということはですね、それも当然当たり前のようにね、書いていますけども、ということはもう既に、山口区長の言われているということも、お手上げってということなんですかね。
- ・ そうなりますね。10 万人、アドバルーンを上げてみたけども、これは本気じゃないと、そう解釈していいですかね。
- ・ またナンバー 10 ではですね、港区の課題である人口減少を食い止めるため、ということですね、この人口減少を食い止めるためにも、ここでも書いているように住民を増やすには港区に住みたいと思ってもらえる、住環境、教育環境の整備や産業振興による雇用の確保というのを書いています。
- ・ ここでも教育環境をね、言うてる。そういうことを言いながら、学校を潰すというのはどうという神経をしているかなというふうに思います。
- ・ それとですね、前回、前々回、小規模学校になって、何か支障があったのかということは何人かね、参加者が質問しました。その時の答えはそういう事例はないというふうに言われていますね、今日は何か言われましたけども。
- ・ 例えば法律をね、制定する時に、立法事実と言うことがありますね。これこれこういうことがあるから、こういう法律が必要なんですという立法事実。条例なんかいろいろありますけども、実際それを執行する上でね、行政がする上で、言うたら、その立法事実に当たるもの、そういう支障がないにも関わらず、何が何でもやりますというのはね、これはちょっとおかしいんじゃないかというふうに思うんですね。
- ・ だから行政をする上でも、立法事実匹敵するようなね、何らかそれなりの理由と事実というものがね、いると思うんですよ。それもないにも関わらず、するということになると、この間の説明会でも意見を言わせてもらったけども、子どものことよりも、やっぱり自分たちのね、立身出世、そちらの方を優先しているんじゃないかなというふうに考えざるを得ない。
- ・ それとですね、そういう皆さん本当に頭が良くて優秀だと思いますけど、それやっぱり本当にこの世の中を良くするために、子どものためにやっぱり使ってほしいというふうに思います。
- ・ それとですね、もう一つ廃校にした後のところ、生野のほうでは、インターナショナルスクールですかね。そういったものをやるというふうに、港区もそうするんだというふうなことですけども、例えば、生野小学校はワンワールドインターナショナルスクールというものをやっているらしいです。これを小学校の後にこれを入れているわけですね。
- ・ 7 歳から 11 歳まで、授業料が 48 万円、申込料 3 万円、登録料が 5 万円、海外学習費 5 万円。もう一つ、林寺（はやしでら）小学校と読みますかね、これもインターナショナルスクール、小学校の部が、授業料が 99 万円、入学費 10 万円、維持費 5 万円、なんかこう、小学校潰しておいて、それに代わって、なんかこういう学習のね、収益化とか、というふうに持っていくのも、こういったことはどうかと思います。
- ・ インターナショナルスクールというのは耳障りいいようですけど、実際にはこんな本当に限られた人しか行けないというようなものになるんじゃないかなと思います。以上です。

(早川 港区役所教育担当課長)

- ・ 今のご質問の中で、一点だけ。19ページに小規模校のほうが丁寧な対応ができるのではないかと、ここに答えられてないという、ちょっとこの右側の今後の対応というところで、この下の方の前の資料なんですけど、確かに小規模校の利点は、こういう利点、一人一人に目が届きやすいとか、一人一人の学習状況を把握し、個別指導を含めたきめ細やかな指導が行いやすい、そういうメリットは小規模校でもあるということです。
- ・ ただ、課題として、やはりさきほどからも説明もあったとおり、クラス替えができないことから人間関係が固定化するとか、クラブ活動とか、こういうデメリットもあるということで、一方的にやるだということではなしに、その辺を総合的に考えて学校の再編はすべきという方向性で考えていると、この一点だけ私の方からです。すみません。

(ご質問・ご意見：6人目の方)

- ・ 小規模校のメリットというものをね、投げ捨ててまで大規模にするということがね、理由がわからへん。

(早川 港区役所教育担当課長)

- ・ 小規模校のメリット、大規模校のメリットというか、小規模校の課題、そこを総合的に判断して、今の考え方としては大阪市、国も含めてデメリットのほうが多いんじゃないかということで、そういう方向性で検討をしているということです。

(ご質問・ご意見：6人目の方)

- ・ そのデメリットのことで、実際に何か支障があったのかと、前回の説明会で質問したら、無いと答えられました。無いにも関わらずするのか。

(早川 港区役所教育担当課長)

- ・ 前回の議事録を確認しないと分かりませんが、学校の方にお話を聞くこともあるんですけど、やはりその辺、クラス替えができないことによるデメリットとか、さきほど説明あったように、中学校なんかでしたら部活動が成り立たないという、そういうデメリットというのは実際にあるのはあります。
- ・ だからちょっと、その前回どういうふうな議論で、そうおっしゃっているかは確認しないと分かりませんが。

(ご質問・ご意見：6人目の方)

- ・ 部活動ができないという、いろいろ近隣の学校と、そのときは合併してやるとかね。そういうことはなんぼでも工夫すればできるわけですよ。違いますか。
- ・

(早川 港区役所教育担当課長)

- ・ 確かに学校対抗という形ではないですけど、そこまでのデメリットかと言われたら違うかも分かりません。

- ・ それで、さきほど私言いましたように、クラス替えできないことによって、不登校になった子がずっと同じ人間関係であつたら、それが変わらない、もう学校を変わないと、転校しないと引っ越しをしないととかいうところまで行かれる家庭もあると思うんです。そこは私ちょっと個人的な意見になるかもわかりませんが、あのデメリットやと思っています。

(ご質問・ご意見：6人目の方)

- ・ いじめられている対象がいなくなったら、また違うほうに向かうのではないですか。先生の加配と恩着せがましく、言っていますけど、さらにもっと加配して、子どものいろんな問題に寄り添えるようなことをするのが大事だと思います。
- ・ 学校選択制のことについて、橋下徹さんが言い出した。そのことについて、教育委員会は、私のところの諮問機関で、これ審議しています。さっきも政治の介入じゃないですかと話をしたら、教育委員会のところでやっています。ということは、教育委員会は大阪市長の命令は聞かれてないということですか。独自で判断するということですか。

(教育委員会事務局・笹田学校適正配置担当課長)

- ・ 例えば、橋下元市長が学校選択制の導入に当たって、当初市長選の公約に掲げたという話がありました。
- ・ その際、導入するという考え方のもと、教育行政、教育委員会として学校選択制を含む、就学制度について、どのように改善していくかについて、学識経験者の方、保護者の方、いろんな方々と議論を重ねて、必要な制度設計というものを進めてきたということです。

(ご質問・ご意見：6人目の方)

- ・ 橋下さんの言ったことを受けるために、その実現するために、教育委員会が動いたと。

(山口 港区長)

- ・ よろしいでしょうか。政治の議論をする場ではなく、子どもたちの教育環境について考える場であり、前回も私は失礼ですよと申し上げたと思うんですけども「立身出世のために学校再編をやろうとしている」というのは大変失礼な発言だと思います。
- ・ 学校適正配置というのは、本当にしんどい話です。正直なところ、もっと10年、20年前から子どもが減るのはわかっていたはずですよ。もっと真摯に議論をし、まちづくりをし、いろんなことを全員でやってこなければいけなかったんですけども、やはりいろんな状況もあって、地域の方も頑張っているけれども、市営住宅の多いまちの特徴であったり、なかなか厳しいところがあって、今の状態になっています。これ以上、減るのを見てられない。
- ・ 10万人にするような話をちょっと解説しますと、今は港区の人口は8万人弱です。それで2045年このまま何もしなければ、6万人を切るというのが将来予測です。
- ・ これは人口問題研究所というところが出している数字で、かなり正確な数字になります。ただ、そこには万博だとか、そういったこれから、まちが発展する要素とか、外国の人が増えるという要素はあまり入っていないです。
- ・ そこが港区においてまだまだ可能性のある部分ではあります。確実とは言えないけれども、可能性が十分あると思っていまして、10万人にするにはどうしたらいいんだと。

- ・ 2045年まで大体23年間あります。2万人足りません。それを割り算すると、毎年、港区全体で870人増えたらいい。870人って、どこが増えているか、福島区が今その勢いで増えています。
- ・ 残念ながらあのペースでのマンションの建築とかが、今はある状態ではないですけども、実例としては大体、福島区がその勢いで増えています。
- ・ 毎年870人増えたらいい。それを自分ごととしてほしいと思ったので、港区にある11の地域で割り算をしました。そうすると大体毎年80人ぐらい、一つの地域で増えたらいいなということになります。
- ・ もちろん自然現象、どうしても亡くなる方もいらっしゃいますし、転出される方もいるんで、それを見込むのであれば、毎年150人ぐらい増えたらいい。じゃあ家の周りにある、ほってある空き家が気になるわと言う話になる。ちゃんと相談してくれないと相続のときに大体空き家になっちゃうんです。
- ・ そういったことを、もっと皆さんも真剣に考えてほしい。商店街の空き店舗も上に住んでいたりとか、いろんな事情でシャッターが下りている。実は空き店舗じゃなくて所有者がいらっしゃるから、新しい人をなかなか入れてもらえないという状況もあるんです。
- ・ そういったことにも、まちぐるみで、みんなで一緒にやってみようというのが、私の思いとして立てた10万人という旗です。この旗がでかいことぐらい分かっているんです。10万人と言ってて、何とか8万人を2045年に維持できるかどうかぐらいかもしれない。
- ・ でも、もしかしたら外国の方がたくさん来て、どんどんマンションが建って、ものすごく本当に10万になってるかもしれない。でも今何もしなければ2万人減るんです。6万人切るんです。その未来をただただ、ぼんやり見ているわけにはいかないと思って、分かりやすく示すために出したのがこの数字と、そういったことを広報紙を使って発信をしています。
- ・ そうは言いながら、1個の小学校が今1クラス。それを2クラスにするには一つの小学校区に700戸のファミリー向けの住宅が供給されなければなりません。
- ・ それぐらいの予測、例えばマンション350戸が入るマンションが2つ立ちますと決まるところは、再編せずに、そこに入居者が入るのを待ちます。そしたら2クラス以上になる見込みがあります。
- ・ ただ残念ながら、今それぞれの小学校区の中に700戸のファミリー向け住宅が、今すぐ立つ約束がされていない中で、どんどん子どもが減ってくる中、また教員が若くなって、隣のクラスに相談できずにしんどい思いもする先生たちもいる中で、大人の都合も、もちろんあると思います。あると思うんだけど、やはり子どもたちに、基本的には良い授業こそ、子どもを伸ばすし、先生の力というのが一番大事なんです。先生が子どもに向き合う力が一番大事なんです。
- ・ そこを何とか保障したいと思って、今私たちは取り組んでいますし、新しい学校に先生とかスクールカウンセラーとかもしっかり付けて、良い学校にして何とか周りに住みたい、この小学校区に住みたいと思えるような学校にしたいという思いではあります。以上です。

(村上 港区役所協働まちづくり課長代理)

- ・ すいません、少し細かいところで2点ほどご説明させていただきます。さきほど区長からもございましたけれども、それと教育環境の充実といったところで、それが矛盾しているんじゃないかということのご指摘があったかと思えます。

- ・ 教育関係の充実というところで申し上げますと、今日ですね、お示しさせていただいております資料のところで、私さきほどご説明させていただいたところの中からは割愛させていただいているところではありますけれども、36ページのところで、前回の説明会資料ということで、7月、8月のところの資料の中にもございます。
- ・ 本日の資料で申し上げますと、36ページ。OSAKA みなと未来教育ネットワークといったものを今年度、港区のほうでは立ち上げてまいりました。
- ・ これは再編対象としておる学校だけではありませんけれども、こういったところを通じて学校のほうの教育環境を充実させるということについては取り組んできたところでございます。
- ・ したがって、こちらの方のこの教育環境の充実ということと、冒頭ご指摘があったような形の中で、その人口を増やすということと、教育環境の充実ということについて、お手上げなんではないかということのご指摘でしたけれども、決してお手上げをしているということではございません。
- ・ それから、あとですね、生野区の事例のところの中でインターナショナルスクールのところで授業料がかなりの高額であるといったところの部分に対して、そうしたものを学校、小学校を廃校して、それから高額な授業料を必要とするインターナショナルスクールということが、それはいかがなものかということのご指摘もいただきましたけれども、こちらのほうですね、インターナショナルスクールというのは、あくまでも大阪市の公立の小学校や中学校ではございません。
- ・ ですので、そこのところは違うわけですが、授業料云々のところよりも、どちらかというと、これは先行区の事例ということでご紹介をさせていただいたということが一点。
- ・ それからこのインターナショナルスクールというものを、ここをですね、跡地の活用の一つとしてそういう形で活用することによって、防災拠点の維持機能、機能を維持するという形の手法を、それを手法として、そういうのを導入しておるということで、インターナショナルスクールが答えなのではなくて、防災拠点の維持する、機能を維持する、そこのところをクリアしていくための一つの仕掛けとして、インターナショナルスクールというのを導入しておるというように伺っているところでございます。
- ・ ですので、いずれにいたしましても、これ答えありきではありませんので、一つの一例としてご紹介しているというふうにご理解いただければと思います。

以 上